

上田 俊穂 先生を追悼して

29期 ^{まつだ ひでき} 松田 秀樹

私は2年生の時、他校から編入してきたものですが、その時のクラスが2年5組・上田クラスでした。4月の始業式、最初のHR。すでに聞いていた2年5組教室に勝手に入り空いている席に適当に座っていたら、若くはつらつとした先生が教室に入ってくるなり、「ここに転入生はいないか！」と声をかけられたのが最初の出会いだった。

それ以来、上田先生と関わったエピソードを交えながら語ってみましょう。

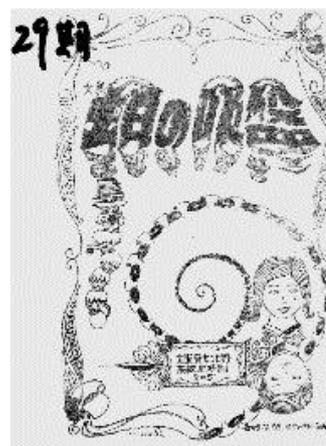
エピソード1

2年5組の皆さんなら右の絵に心当たりあると思います。

そう、クラス文集「蛸の吸盤」の表紙です。もちろん上田先生の作品です。器用で奇妙で、表題からして意味不明な絵です。

描いた本人さえ「奇妙な題、訳のわからぬ絵」と言ってる位ですから。クラス仲間全員の作文と共に上田先生の青春時代をほのぼのと綴った「私の高校時代」の文もあり、それを読むと私たちと同じように喜び、恋もし、苦悩もされていたのだなど。

このように如何にもミステリアスなところが上田先生らしい。



エピソード2

当時山岳部というのがあって、私自身山登りにはあまり興味はなかったのですが、友人から強く誘われて一緒に六甲山の24時間縦走について行った。もちろん夜間も一睡もせず歩き続けるわけで眠いし、腹も減るし結構大変なものでした。明け方にやっと目的地に到着したら、上田先生が迎えに来ておられた。その時先生が作ってくれた暖かいみそ汁の味は今でも忘れられない。「みそ汁」といってもお湯に味噌を放り込んで近くに落ちていた枯れ枝でかき混ぜただけのものですが、疲れた体には元気が取り戻せた。

このようにちょっとワイルドなところが如何にも上田先生らしい。

エピソード3

当時、先生は新婚間もないころだった。私にも悪友が次々できて、免許を取ったばかりの山田君がどこからか借りてきたボロ車を運転して天岡君らと共に上田先生の家まで押しかけて、『先生！一緒にドライブ行こうや！』という「暴挙」をやってしまった。

それでも嫌がることもなく、赤ん坊を胸に抱いて不安そうな眼差しで見送る奥さんを尻目に平然と乗り込んでこられた。怖いもの知らずというか度胸があるというか、このように無鉄砲なところが如何にも上田先生らしい。

エピソード4

しばらく先生ともお会いすることもなく時は流れて1997年10月、たまたま京都府立植物園へ行った時のことだった。そうしたら丁度「きのこ展」なるものが催されていて、もしかしたら上田先生がいるのではないかと思入ると、予想通り先生とバッタリ！

「きのこ」について説明される先生の姿はいつもの先生ではない。奥深い研究と高度な知識に裏打ちされた「学者」の顔そのものである。改めて先生の博学多才な一面に驚かされた。

このように行動的かつ好奇心旺盛で多才な顔を持つマルチ人間なところが如何にも上田先生らしい。

エピソード5

そして最後に先生とお会いしたのは2013年の3月31日。2年5組の仲間が数名集まり一緒に花見会を行った。長い闘病生活でかなり辛いはずなのに、表情には一切出さずいつものように優しく生徒を見つめてくれる先生の姿であった。

そんな時、私が何気なく「先生、明日から実は屋久島に行くのですよ。」そうしたらまさに条件反射的に「えっ、宮之浦岳に登るのか。」と問い返してこられた。(ちなみに宮之浦岳は九州で一番高い山ですが残念ながら天候不順で縄文杉までしか行けなかった。)若いころから様々な山に登り、こよなく山を愛してこられた上田先生らしいお言葉であった。

以上思いつくまま、私なりのエピソードを書きましたが、先生と関わった方々それぞれ深い思い出がある事でしょう。皆さんと共に上田先生のご冥福をお祈りいたします。

2013年10月15日

***事務局** 先生からは多数の定時制資料を提供して頂き、総会、同期会、クラス会に多く参加して頂きました、在学中もクラスはもとより登山部を中心に長きに渡り若い先生と青春を共にし、多くの生徒がお世話になりました。改めて感謝と心からのご冥福をお祈り申し上げます。



30期会での上田先生 (2009年8月撮影)